

令和6年度第2回清瀬市社会教育委員の会議 議事録

令和6年度第2回清瀬市社会教育委員の会議が令和6年7月29日に開催された。
出席委員、議事の概要は次のとおり。

日 時 令和6年7月29日（月）午前10時から正午まで

開催場所 清瀬市役所本庁舎 2階 会議室2-3（対面開催、オンライン出席者有）

出席委員 （対面参加）
倉持議長、齊藤副議長、西田委員、永嶋委員
（オンライン参加）
松山委員、玉置委員

欠席委員 長沼委員

事務局 生涯学習スポーツ課 上竹係長、峰岸主査、成田

次第1 開会

事務局より

- ・開催方法の確認（対面開催、松山委員、玉置委員はオンラインで参加
長沼委員は欠席）
- ・資料の確認

2 議題

（1）社会教育団体の補助金について

- ・清瀬市体育協会（活動の事業費、管理運営費）
- ・清瀬市文化協会

（2）4ブロック研修会について

- ・登壇者
- ・JLCサマーキャンプ議題決定
- ・研修会の内容等の決定、他

（倉持議長）

それでは、令和6年度第2回社会教育委員の会議を始める。

(事務局)

本日は長沼委員が公務ため欠席、松山委員と玉置委員はオンラインでの参加となり、永嶋委員は出張のため遅れての出席となる。

(倉持議長)

では議題に入る。まずは社会教育団体の補助金についてということで、体育協会については玉置委員より説明いただきたい。

(玉置委員)

体育協会からは補助金について三つ項目が出ている。

一つ目は運営管理予算として90万円。二つ目が各種大会への参加に伴う経費として30万円。三つ目が清瀬市市民スポーツフェスティバル推進の補助金として40万円。

一つ目と二つ目の補助金は例年通り申請している補助金であるが、三つ目のスポーツフェスティバルを新規事業として申請している。

既存の事業として、人件費、会議費、渉外費、旅費交通費、役員報酬費、諸会費、通信運搬費、事務消耗品費、支払手数料、租税公課として、体育協会の運営費に当たる部分の補助金を申請している。予算は159万で、90万円を補助金として申請しているため、体育協会負担金が69万円となる。

二つ目の各種大会への参加に伴う経費として、東京都が運営している都民大会や市町村大会、それと清瀬市スポーツマスターズ大会について、選手派遣のための参加費や交通費として使わせていただいている。都民大会は11万1080円、市町村大会は6万8920円、清瀬市スポーツマスターズ大会は12万円で、合計30万円を予算として申請している。

三つ目のスポーツフェスティバルだが、こちらは新規事業となる。

2019年にマラソン大会が台風により中止となり、その後コロナの影響で4年ほど何もできていない状況で、体育協会主催の市民イベントが全く無い状況だった。それを新しい事業として、体育の日に因み、市民の健康をサポートしたいと考え申請させていただいた。健康の健に幸せと書いて健幸としている。

効果については市民の競技レベルの向上、市民の健幸に対する意識を高め、市のスポーツ振興の発展に寄与するとしている。

清瀬内山運動公園サッカー場の人工芝のグラウンドを借り、運動会のような玉入れや綱引きなど、みんなで楽しみながら、老若男女、みんなのできるイベントを企画した。小学校から一部備品を借用できる。

内訳として会場費5万7000円、保険料3万6300円、イベント競技用品その他10万円、事務用品費5万3000円、救護者看護師謝金2万円、交通警備費5万円、消耗品費9万円、清瀬市の補助金として40万円の予算で申請している。

残りの15万円は参加費で、マラソン大会については小中学生が500円、一般の方は1000円だったが、運動会のような形式にお金が発生するのかという意見があり、

参加費として一律300円をいただき、それを運営にまわす。参加費の使い道として、飲料水を配布したり、イベントでリストバンドを作る費用、スタッフの昼食代などで15万円を計上している。合計で55万円の事業となり、40万円を補助金として申請している。

(倉持議長)

マラソン大会の時も補助金をもらっていたのか。

(玉置委員)

40万円をもらっていた。

マラソン大会の時は賞品、賞状や参加賞としてタオルなどを配布した。参加費として500円、一般が1000円で大体600人ぐらいが参加した。39回やっていたイベントだったが、ここ5年はできなくなっていたということもあり、こちらを新規イベントとして申請させていただいた。

(倉持議長)

マラソン大会は一旦休止して、このスポーツフェスティバルを新たにやるということだが、来場者はだいたい何人ぐらい見込んでいるのか。

(玉置委員)

300人は見込んでいるが、1年目なので、一般の方が来るのかどうか分からないところもあり、体育協会の加盟団体の選手やご家族、周りの方に声かけをしていくつもりだ。

また、市報を通じて、市民の方に案内をしていければと考えている。

(倉持議長)

清瀬は地区ごとの体育大会というものはあるのか。地域で運動会のようなことをやろうとしたら、このようなことが初めてなのか。

(玉置委員)

元々は地区対抗の市民運動会をやっていたようだが、それが徐々になくなり、マラソン大会になったようだ。地区対抗のようなものも考えたが、取りまとめが難しい。

ゆくゆくは清瀬出身の有名なアスリートの方がいたら、その方を呼んで一緒に走ったり、投げたりするようなことができればという、最終的な構想はあるが、まずは1回やってみたい。

(倉持議長)

他に質問がないようなので、承認する。

では、次の文化協会の補助金の説明を事務局からお願いしたい。

(事務局)

文化協会の補助金報告書をご覧ください。

文化協会について、申請目的として、毎年11月に開催の文化協会主催の市民文化祭の支援を行う。今年度は第52回目となる。

実績報告から説明させていただくと、昨年度は51回目となるが、参加団体数は文化協会に加盟している団体で19団体、一般公募で24団体の計43団体の参加があった。2日間開催した。

現在文化協会の加盟団体が少ないというところで、活動を終了する団体もあるが、毎年一般公募で参加する団体もあるので、若い世代の方々にも参加を働きかけ、文化協会に加盟していただき、今後の文化の発展に寄与していきたいと伺っている。

今年度の補助金申請について説明いたしますと、今年の文化祭は11月2日、3日の2日間で開催する予定になっている。市からの補助金の予算額については61万8000円があり、文化協会の予算書では、市からの補助金として61万7700円計上している。

昨年度60周年を迎え、記念式典が無事に終了したと伺っている。今年度は引き続き、市民文化祭を開催することや、清瀬市文化協会加盟団体の活動への協力、文化協会の広報活動に対して補助金の交付申請が提出されている。

昨年度の補助金は50万円だったが、今年度から施設の使用料が発生することから、補助金の予算額が増額となっている。

一般公募については7月19日に募集を締め切ったが、個人は7団体、団体は18団体から応募をいただいている。

(倉持議長)

施設の使用料とはアミューの施設費のことか。

(事務局)

その通り。

市が共催していたこともあり、公用ということで料金が発生しなかったが、主催として文化協会がなったため、施設使用料が発生することとなった。

(倉持議長)

他に何かご質問やご意見はあるか。

(松山委員)

支出の部でプログラム作成が2300部となっているが、参加団体や会員数に対して部数が多いように思う。どれくらいの参加者を見込んでいるのか。

かなり広く声掛けをして、参加される方以外にもたくさん来ていただくような形で実施するという事なのか。

(事務局)

参加される方にお配りするもの、市でお配りするもの、施設でお配りするものなど、様々な施設でお配りするのためのものでもある。部数は昨年と同数である。

(倉持議長)

プログラムと言っているが、チラシのような要素があるということか。

(松山委員)

理解した。

(倉持議長)

広報的な要素も兼ねているということで納得した。他にご意見はあるか。

(齊藤副議長)

昨年の文化協会のことで様々な話が出ていたが、そちらの件については何か進展があったか。予算とは関係のない話なのだが。

(事務局)

特に進展はない。社会教育委員の会議の中で、文化協会の在り方を検討していただいたと思うが、その中で、当時の高井議長から教育長に答申のような形で文章をお渡ししている。

その内容も文化協会には伝えてあり、努力はしているが、どうしても会員が増えないということは言っていた。会員になると役員をやらなければならないなど、様々な役割が回ってきてしまう意見もある。個人で出ている方もいる。個人でも料金を支払えば同じように出られるということで、会員数については伸び悩んでいる。

(松山委員)

去年は世代を超えて参加していただいた形が多くあったかと思うが、今年も中高生や小学生など、多世代の参加は見込まれているのか。

(事務局)

清瀬市の「ころぼっくる」を中心に活動している「きよせけん玉の“w a”」という団体があるが、その団体の小学生らが参加していただけると聞いている。

(松山委員)

社会教育委員の会議でも、なるべく世代を超えて集えるような場所にして欲しいという要望をお伝えしていた。そういう形になって欲しいと思う。

(倉持議長)

付帯意見として、来場者に文化協会への入会促進をするよう努めてください。多様な世代が参加できる機会となるよう努めてください。

(齊藤副議長)

運営については高齢化してきているということで、担い手をどう作っていくかという課題がある。

(倉持議長)

文化祭という機会などで、運営に様々な人に関わってもらい、そこから次の担い手が引き継いでいくことが理想ではあると思うが、手間はかかる。

個人での参加はしやすいが、それがかえって団体離れを起こしている。基本方針を見ると、若い方々への参加の働きかけが記載されている。

それでは、文化協会の状況に少し意見を付け、承認をしたいと思います。

議題の2番目に移る。都市社連協の第4ブロック研修会についてプログラム確定の作業に入っていきたいと思う。まず事務局より資料の説明をお願いしたい。

(事務局)

4ブロック研修会として、いくつかまとめさせていただいた。

1枚目が開催通知、2枚目が開催の概要、3枚目が当日の次第の案、4枚目がタイムスケジュール、5枚目が生涯学習センターの当日の配置図となる。

まずは登壇者の確認をしたい。2枚目の開催概要を見ていただくと、以前、事例発表ということで登壇者の候補が挙がっていた。

まず1人目がウイズアイの黒田一美氏。ウイズアイの活動としては、子供食堂や不登校支援など、子供への支援についての話がメインになるかと思う。

黒田氏からは別紙でスライドをいただいている。昨年度の事業報告の資料としていただいております。こちらを最新のものに変えて発表を予定していると伺っている。

2人目は前回の会議で候補としてきよせラボを挙げていただいたが、齊藤副議長から、きよせエンジンの方を推薦していただいた。

倉持議長とも相談の上、事例発表としてはきよせエンジンの活動の方がより良いかということになり、事務局からきよせ社協の生活支援コーディネーターである浅見真帆子氏へ依頼をしている。

高齢者を軸とした活動をしており、そこに若い人が参画している。浅見氏は清瀬市全般の活動を支援している方。

一方で、きよせエンジンの立ち上げの1人として信愛地区を担当する森コーディネーターの名前も挙がっているが、残念ながら森コーディネーターは研修会当日のスケジュール調整が難しいということだが、きよせエンジンの実働部隊の方が代わりに登壇いただくこともできると伺っている。2人目についてはまだ未確定状態となっている。

3人目の登壇者としては、コミュニティスクールの話が挙がっており、こちらは学校支援本部の統括をされている齊藤副議長にお話しいただくことになった。

以上の3名が登壇者の候補として挙がっている。

(倉持議長)

第4ブロックの研修テーマは「子供と社会をつなげる地域づくり～多様な世代の参加で始まる担い手育成～」ということで、前回テーマと方向性を決めた。事例発表とグループディスカッションというところまで決まり、登壇者にはこういう人がいいというところまで話し、具体的に打診をしていただいた。

二つ目の事例発表の登壇者として、浅見氏は市全体が分かる人ということで福祉的な視点でやっておられるが、そこに若い世代も参加することを促しているというような印象を受けた。

きよせエンジンとしてもう少しエリアを絞った活動ということで、実践のような話を聞くのであれば現場の方がいいのではという話があり、森氏の名前が挙がっていたが、都合が合わなかった。ただ、代わりの方を出していただけるという話はあるので、全体が分かる人がよいのか、具体的な活動をやっておられる方がよいのかというところを今日検討したい。

(西田委員)

ウイズアイは不登校という文言でここには書いているが、今は子供の居場所という表現を使用している。個人的には、担い手育成というところがとても引っかかっている。

黒田氏が添付した資料は、先週、令和5年度の事業報告会をさせていただいた時に使った資料で、これを研修会の発表用に数字を変え、変更やアレンジをしていくと本人からは聞いている。

(倉持議長)

黒田氏には事業の部分と担い手の話も出していただくようお願いした方が良いでしょう。

(西田委員)

これはウイズアイの中の単独の事業の報告として取り上げられている。休眠預金を使った3年間の助成を受けている事業で、その事業だけの発表になっている。

ただ、ウイズアイ自体が、保育や子供を預けた利用者側だった母親たちが働いているという、大きな支援者の循環のようなものがある。そのような視点も入れれば繋がると思う。

また、小学校の高学年では、母親が働いているため自宅に一人であるしかないような子は、保育ボランティアとしてお手伝いをしつつ、無料で預かりの場を作っていて、そこが居場所にもなっている。そのようなとても若い世代が参画している。そのような話をしていただけると良いかと思う。

(倉持議長)

そのあたりの話も足していただき、事業報告は半分ぐらいにさせていただく。

(西田委員)

地域づくりというところではとても合致していると思うが、ここも社会事業大学の

学生という若い世代が入っている。大学生たちが子供会議を開き、子供たちの意見を吸い上げてイベントを企画するというのもしているの、二本立てのようなイメージで話していただきたいが、事例発表の時間はどれくらいなのか。

(倉持議長)

1人15分と結構短い。前回松山委員から、子供の話も聞いたほうが良いのではという意見があったため、研修会当日に子どもの参加は難しいので、ジュニアリーダーズクラブでキャンプをする子供たちに意見を聞き、その聞いた意見をこの会議で出してもらおうということを事務局が考えた。それも入れるのでかなり充実している。清瀬はこれだけ素材があるということが凄い。15分で深めるところまではなかなか難しいが、後半のグループディスカッションにも登壇者に引き続き参加していただければ、その中で深く話を聞いていただくようなことも良いかと思う。

前半は子どもと社会をつなげる地域づくりや地域の関わり、居場所づくりのような話の概要を半分ぐらいしてもらい、後半は保護者が支援者になっていく話と、子供自身がボランティアをして、自分たちの居場所にもなっているという話。大学生のような若い世代と関わって、大学生もそのような居場所を作っていく。そういう担い手育成というか循環というような話を足していただく。

(西田委員)

同じ地域なので、清瀬エンジンのイベントなどにも関わっている。それを具体的に話していただくようお願いしたい。

(倉持議長)

次の浅見氏ときよせエンジンの部分はどうか。

(齊藤副議長)

もし浅見氏が登壇するのであれば、全体的なことをお話しいただくのと、地域に絞ったきよせエンジンの話も入れていただきたい。きよせエンジンとウイズアイはとても関わりがあるので、そこの共通点を探りつつお話しいただきたい。

きよせエンジンは多世代食堂や様々な学校や地域、企業を巻き込んで、社会事業大学の庭で焼き芋大作戦などを行っている。それがなぜ始まったかという、社会事業大学から、落ち葉がたくさん出るからこちらを使って何かできないかというような話から、では焼き芋をという感じで始まった。地域の清掃もありつつ、その地域清掃に子供たちも参加している。

(倉持議長)

地域課題のようなどころから地域交流へ、多機関連携のような要素が入っている。地域密着型の団体という感じだ。

(西田委員)

去年の10月に竹丘で焼き芋大作戦を実施。今年の3月に野塩でエール食堂を実施。多世代交流食堂に100人ぐらい来た。私も行っているが、そこに色々なところが絡んでいて、薬剤師や看護師、保育士、調剤薬局、福祉、子供の教育、QOLなど、色々なところをたくさん巻き込んでいるのが森氏の仕事。ただ、年1回だとお祭りイベントで終わってしまうので、食の提供というところには繋がりにくいけど、きっかけにはなる。ボランティアや学生などを全部入れたら80人ぐらいいたと思う。そこで知り合った大学生が子供食堂に関わってくれ、子供たちの対応をしてくれているというのは実際にある。

(倉持議長)

そのようなところに色々な団体も絡んでいるから、そこに来た若者が、また次の活動を展開していく。

(西田委員)

そこには社会事業大学のOBも来ていたので、OBから現場の仕事の話の話を聞いたり相談したり、就職相談の場もあり、縦も横も斜めも繋がりがあったように感じた。

(倉持議長)

聞いて分かり易さも有り広がりもある。全体像も良いけれど、事例の話としてはそのような話を聞いた方が良いかも知れない。

そうすると、浅見氏にそれを話していただいても、実働部隊の方に来てもらい、話していただいても、また話し方が違うかもしれない。

(西田委員)

浅見氏が一番若いと思う。そういう意味でも、発表者もここは世代間でいかがでしょうか。

(倉持議長)

浅見氏にお願いをする時に、先ほどの焼き芋イベントや多世代食堂の話もぜひ入れていただきたい。何か色々な団体を巻き込んでいる話とか、その地域の課題がきっかけだとか、そういう地域住民の人たちの話がきっかけで始まっているところや、子供を巻き込んでいるところ、世代交流しているところや、それがきっかけでまた何か広がったりしているところなど、そういう要素を織り込んで話して欲しい。

かなり具体的なオーダーだが、そこが面白いところだと思う。どのような団体だとか、どのような反応があるかなど、その辺を話していただきたい。

各事例発表のタイトルを仮でも決めておきたい。

(齊藤副議長)

清瀬市では学校支援本部が令和2年度に全校に設置をされて、令和3年から第六小学校がコミュニティスクール(CS)となった。このように順番にCS化しているが、C

Sに移行するにあたり、地域とどのように関わっているのかということ、先行してCS化している学校と、これからCS化していく学校とで、状況や担い手としてどんな方々が関わっているのかなど、少し話してみたいと思っている。

ウイズアイやきよせエンジンなども今まで学校支援本部と関わってきた部分もある。CSというところでは、ウイズアイも第六小学校と関わっているので、何か話ができたらいいと考えている。内容については具体的にはまだ決まっていないが、学校を核として話していけたらと考えている。

(西田委員)

順番はこの順番なのか。聞く方にとってどういう順番で話すと理解していただきやすいのか。

(齊藤副議長)

私としては先に二つの団体が話されて、その話も少し絡めて話したいと思っている。

(倉持議長)

団体の活動、地域の中での活動の話があり、そういう活動をしている団体が学校支援本部にどのように関わっているのかというような話で、両側から少し見えてくるような形になり面白いと思う。

(西田委員)

学校支援本部の担い手育成のところ、具体的に私も分からないのだが、そこはどのような感じなのか。

(齊藤副議長)

学校支援本部はコーディネーターの担い手、次の世代をどう取り込んでいくかということは数年の課題である。その辺りと、CSになっていくにあたり、その地域で何か色々な活動をすることもある。その地域の活動の担い手をどう増やしていければよいのかということ。

(倉持議長)

小学校単位の地域の担い手と、それを繋ぐようなコーディネーターと両方の担い手育成をしていかないと上手くいかないという話。

それが、つなぎ目だけ地域活動自体も活発にならないと続かないし、つなぎ目の人もその方法を打破するような方が集まらないといけない。その辺は何か今やっていることはあるのか。

(齊藤副議長)

コーディネーターについては、具体的に初任者研修や色々な研修を通してコーディネーターを育成していくことはやっている。実際にはやはり、その地域で活発に活動して

いる人に丁寧に声掛けをしていくことが一番多い。なかなか皆がやりたいというようなことではないので、一緒にやってみようと声を掛けて誘っている。

(倉持議長)

今のコーディネーターはどのような人が多いのか。例えばPTA経験者や地域の相談団体の方、退職された方などでいうと、どのような方が多いか。

(齊藤副議長)

やはりその学校のことを知っているので、PTAや保護者の会の役員などを経験されている方が多い。

今回の第4ブロックの各市で、学校支援本部があるところとないところを事務局に調べていただきたい。

(倉持議長)

小平はCSの先進地域であり、モデル地域でもある。他の市はどうか。

(齊藤副議長)

東村山と東久留米が学校支援本部を始めたばかりという感じだった。

(倉持議長)

それぞれ動いておられるから、共通認識は持てると思う。

とても充実した報告内容にはなりそうだが、1人15分ずつ話してもらい、前半は事例発表、後半はグループディスカッションをするので、グループディスカッションの時間も一定程度確保したい。前半の事例発表を20分にする、3人やったらそれで1時間。この後子供たちへの意見を聞くのも、こんな貴重な機会もなかなか無いので、それも聞いた上で後半のグループディスカッションに入れるといい。スケジュールをこの後打ち合わせしたいが、その前に子供たちの話をお願いしたい。

(事務局)

今回の研修会で子供たちの意見を取り入れたいという意見があった。清瀬市にはジュニアリーダーズクラブ(JLC)があり、未来の地域を担うリーダーの育成を目指すため、清瀬市の青少年に対して様々な挑戦の場を提供している。

小学校5年生から中学校2年生までの、大体20名程度だが、今年の8月にサマーキャンプが行われる予定である。その中で2時間ほど時間を確保していただいた。そこで議題候補について内容を議論していただき、その内容を研修会で発表するというのはいかがか。議論した内容を子どもたちに模造紙などにまとめてもらいたい。研修会で資料として配布したり、その要約した内容を研修会当日に発表するというのはいかがか。

議題の候補はいくつか挙げさせていただいたが、それ以外にもいくつか挙げていただきたい。参加者が20名ぐらいいるので、三つのグループなどでそれぞれのテーマで話し合ってもらうので、3つぐらいのテーマに絞っていただきたい。キャンプは8月18

日の（日）から8月20日の（火）までの2泊3日。

（倉持議長）

どこへ行く予定か。

（事務局）

群馬県の赤城青年交流の家。

（倉持議長）

キャンプで清瀬の子供たちの意見を伺って、それをこのブロック研修会でも情報提供いただくのはどうか。

テーマはいくつかあり、チームごとに違うテーマで議論したらよいのではないかとということで、複数のテーマを案として出してもらっているが、これ以外のものでも良い。議論の進め方としては、前半1時間くらいをグループワークで交流、意見交換をして、後半でまとめをして発表するというような2時間。まとめたものを、当日のブロック研修会で報告をしていただくという流れをご提案いただいている。

発案者の松山委員いかがか。

（松山委員）

とても良い機会をいただいたと思う。

ワークショップの形式で行うということによろしいか。例えば、何人ぐらいで、誰か大人が入って話をするのかなど、もう少し詳しく当日の形式を教えてください。

あと、挙げていただいた議題だが、例えば、親でも先生でもない大人と普段どのぐらい関わりがあるのか、どんな関わりをしているのかなど、そのようなところが非常に気になっている。小学校5年生ぐらいを想定すると、挙げていただいた質問は少し難しいのではないかと思う質問もあったので、問いかけはその表現の仕方も含めて、少し検討と工夫をしたほうが良いと感じた。

（事務局）

まず人数だが、今回26名が参加し、ほとんどが小学生。中学生が4名、小学生が22名なので、仰る通り少し質問の内容としては難しいと感じる。引率として、市の職員と児童センターの職員が行く。職員が連れていくようになるので、関わり自体はそこまで強くはない。当日は基本的に小中学生で議論していただくようになるので、大人たちはその中でファシリテートはしない。

（倉持議長）

話し合い自体を子供たちでまわしてもらおうというやり方。より分かり易いテーマにしなれば難しい。戸惑ってしまうかも知れない。

（松山委員）

子供たちは模造紙を書いたりするのは慣れているのか。

(事務局)

以前はキャンプ自体を各グループに分けて、自分たちでテーマを決めて模造紙に写真を貼り、1日目にこういうことをしましたなど、発表するグループもいた。感じたことや学んだことをまとめるなど、各グループ毎に分かれて、模造紙を1、2枚でまとめる。それを帰ってきてから発表会をするということをやリ、次のサマーキャンプまでの1年間、児童センターの壁に貼っておくというようなことをやっていた。

今回、私たちは手伝いの立場なので、どのような形になるのかは分からない。ただ、今回2時間ほど子供たちで何か話し合いを持てる時間が欲しいと考え、できればまとめてもらい、形になるものをもらえないかということをお願いをしている。

(倉持議長)

今の子供たちは結構話し合い学習をしている。ジュニアリーダーとして色々な活動をしている子供たちが、どのようなまとめを出してくるのか分からないが、話し合ってまとめることはある程度出来そうだ。児童センターの職員も引率されているとのことで、多少サポートしてくれると期待している。

(松山委員)

せっかく話し合いをたくさんしてもらえるのなら、なるべく全部の言葉をこぼさないように聞きたいと思っている。記録として残るように、付箋に書き出しておいてもらうなど、少しでも手がかりが残れば良いと思う。

大人が入れないのであれば、例えば一人一人の意見を予め付箋に書いてもらい、そこから話し合いを始めてもらうなど、確実に残る方法を取りたい。アンケートと併用するのも一つの案。

(倉持議長)

話し合いの進め方として、まずはお題に対する個人の意見やアイデアを付箋に書き出し、それを話し合いながらまとめていくというような、そんな手法でいかがか。

テーマは難しくなく、5年生以上でできそうで、話し合いが活気づきそうなテーマで。「清瀬の好きなところ」は、割と考えやすそうだと思う。「好きなところはどんなところ」と意見を出してもらい、こういうところが清瀬のいいところだ、などというようにまとめてもらう。

(松山委員)

例えば、大人になった時、どんな町になっていたらいいと思うかなど。

(西田委員)

個人的には「地域の大人と一緒にしてみたいこと」というのは聞いてみたいと思う。子供たちにとって地域の大人とはどの範疇なのか。どう捉えているかによって変わるか

ら、そこをまず聞きたいと思う。

今回のテーマの地域づくりというところでは、地域にクローズアップしたようなテーマが一つあればいいと思った。

周りの大人、親や学校の先生以外のことを言いたい。近所のおじさんや習い事の先生、子供の居場所のスタッフ、子供食堂のスタッフ、顔見知りの商店街やコンビニのスタッフ、色々な人たち。子供たちにとって地域の大人とはどんな人なのかということを出してもらいたいと思う。

(倉持議長)

地域の先生、親以外の、どんな地域の大人と関りを持っているか。あなたにとっての地域の大人とは誰なのかというのを聞く。それをもう少し簡単な言葉で聞くと、少し実態が見えてくると思う。

(玉置委員)

ちなみに、リーダーにはテーマを事前に伝えるのか。

(事務局)

できれば事前に子供たちに何らかの方法でお知らせをしたい。

(松山委員)

地域の大人と何か一緒にできるとしたら、どんなことをしてみたいかという問いかけをずるとして、地域の大人という言葉に何か説明を付ければ良いのではないか。

ここで言う地域の大人は親ではなく、学校の先生でもない、例えばスポーツや何か関りがある大人のような。

あと別件だが、杉並区で教育計画を作る際に子供にアンケートを取っていて、そのアンケートの内容が、「大人にどんな言葉をかけられたら嬉しいか」というものだった。その回答に「ありがとう」といったものが多くあった。そのような具体的な問いかけも良いのかと思う。一緒にしてみたいことというと、少し難しいかを感じる。

(倉持議長)

今回は特に先生や親ではない人、地域をイメージして欲しい。例や解説を付け足す必要がありそうだ。子供にアンケートではなく直接話し合ってもらい、まとめてもらうということは、本当に貴重なすばらしい提案。とても楽しみだ。

(倉持議長)

担い手というテーマからいうと、自分が何をしたいか、できるかと聞くのも面白そうだ。

私の授業を取っている子で清瀬の子がいる。なぜ私とその子が清瀬の子か分かったかという、160～170人いる授業などで手を挙げて清瀬のこと話すため。例えば、日野の話などをすると、その子が「清瀬では」と言う。清瀬のことが大好きなようだ。

でもその子はどうやら、中学校から市内の学校ではなく、大学附属の学校に行っている
ので、地元の学校には小学校ぐらいしか通っていないようだ。それなのに、たくさん清
瀬の話をする。私は清瀬の教育は地域に関心を持つ子供を育てていると思う。その子に
「私は清瀬で委員をやっているが、あなたはどのような経緯で清瀬のことを話すの。」と
聞いてみたら、妹さんは公立学校に通っていて、妹さんの方が清瀬のこと知っている
と言う。彼でも十分なのだが、地域の学びや交流の機会があり、施設を利用したりして
いて、清瀬ではない学校を出ていても、清瀬に愛着心を持っていると感じた。若い世代
である小学生に、清瀬の好きなところやどのような大人と関わっているかなど、ぜひ知
りたい。

先ほどの報告が三つそれぞれ既にとってもボリュームがあるが、このサマーキャンプの
子供たちの話もぜひ聞きたい。せっかく各市からお越しいただくので、この素材で他
の地区の委員とも意見交換をしたい。意見交換をするのであれば、最後にどんな話を
したかということも聞きたい。そうすると2時間では終わらない。会場の関係で後ろに
延ばすことは無理なので、30分前倒し13時半から16時でどうかということ、事務局
にタイムスケジュールを作っていた。

(事務局)

受付は13時からスタートして13時半から研修が始まる。開会の言葉で始まり、1
3時45分から講演を始め、3人終わった段階で14時45分になる。そこから先ほど
のジュニアリーダーズクラブの報告を行う。休憩を挟み、その後グループワーク。グル
ープワークがほしい30分ぐらい時間が取れると思うので、グループワークが終わ
った後で全体の発表をする。最後に齊藤副議長に閉会の挨拶をしていただく。

(倉持議長)

全体の流れとしては、前半1時間ほど報告の時間。休憩を挟んで後半グループワーク
の時間で30分ほど。そして全体の共有の時間があるという流れで考えていただいた。
担当市なので私たちはやるのがたくさんある。挨拶だけではなく、各グループの進行
役として入っていただきたい。当日参加できる委員の数でいくと5グループ。一般的
に開会の言葉が議長で閉会の言葉が副議長だということ。司会をどうするか。

司会を玉置委員にお願いし、閉会の言葉を西田委員にお願いするということが
か。

場所はアミューホール。結構広いと伺っている。4ブロックへは通知を出している
か。

(事務局)

一度皆さんに内容を確認していただき、最終確認をした後で通知を送らせていただく。

(倉持議長)

先日都市社連協の理事会に参加した時に、4ブロック研修会でこんなことをやりま
すと報告をしたら、昭島市の社会教育主事の方から、ウイズアイさんが出られますね、す

ごく聞きたい、楽しみにするというコメントをいただいた。まだ仮決まりの段階だったが、よかったと感じた。そういうことで関心をもって下さる方もいるのだなと思った。平日午後なので、皆さんそれぞれ調整が可能であれば来てくださると思う。

次の会議の前に登壇者の方との打ち合わせが必要。

(事務局)

登壇者の方と発表内容の確認をする。内容に重複などもあるので、登壇者に集まっていただき、ご意見の調整をさせていただく。

(倉持議長)

8月中にその場を持っていただく。そして委員の皆様にもお声がけいただくということをお願いしたい。

次に報告事項として、東京都市町村社会教育連絡協議会の拡大理事会と、その後の会議に出た。各ブロックの研修会の内容や、今年のブロック研修会全体のテーマが発表され、今年度の事業や概要、大会の案についてという話があった。後で事務局から皆さんに資料をメールで流していただき共有する。

全体のテーマは何だったか。

(事務局)

全体テーマは「自ら学び、あなたと考え、ともに創るわたしたちのまちと未来」。

(倉持議長)

4ブロック研修会のテーマと全然ずれていない。逆にそこに子供や若者、担い手というところを少し足している。自らというところも入っているし、まちというところも入っている。

他に報告等、委員から何かある方はいらっしゃるか。なければ本日の会議は以上とし、閉会する。